

爽風

神戸市シルバーカレッジ情報紙
2022年3月 第209号



「シルバーカレッジの春」 絵画ボランティアグループ 美工 26期 長岡 洋

目次

| | |
|----|-----------------------------|
| 2 | 特集：グループ学習発表会（生環、園芸、音文、美工） |
| 10 | 卒業にあたって |
| 12 | ジョイ・ラック・デイ |
| 13 | グループわ だより、ジョイフルクッキング |
| 14 | 文芸サロン：俳句・川柳・応募作品 |
| 15 | 事務局だより、図書室だより |
| 16 | Photo News：2021年度ジョイ・ラック・デイ |

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています。

「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページからお寄せください。

<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右のQRコードを読み取ってアクセスできます。



特集！

令和3年度 グループ学習発表会 (Part 2)

生活環境コース、園芸専攻、音楽文化専攻、美術・工芸専攻

令和3年度のグループ学習発表会の後半部分は、1月28日の生活環境コース（7グループ）からスタートしました。2月4日に園芸専攻（3グループ）、3月1日音楽文化専攻（3グループ）、同2日は美術・工芸専攻（4グループ）が相次いで開催されました。各グループから寄せられた学習の取り組み、成果、苦労話、反省点などをご紹介します。

◇生活環境コース◇

1月28日カレッジホールにおいて、3年間の集大成となる26期生グループ学習発表会が開催されました。発表は7グループで、テーマは「脱炭素社会」・「自然災害」・「自然環境」・「活動消費」・「水道水」等、生活環境全般のジャンルから選ばれていました。コロナ禍で活動が制限される中、8カ月間に及ぶフィールドワークや学習会の成果をパワーポイント、動画や電子音声を駆使し工夫された発表でした。壇上ではコントを交えたり、説明を全員で分担したりとグループの一体感が感じられる、個性溢れるプレゼンテーションでした。

(生環28期 佐野 幸男)

【神戸の脱炭素のために！】

脱カーボンファイブ 大高 松男

私たち5人は、世界と日本の脱炭素への潮流を学ぶと共に、わが街神戸の再エネ動向と課題を調査研究しました。地球温暖化には、脱炭素と再エネが第一の解決策であることを学びました。神戸は日照時間が長く、地勢的に豊富な自然資源があるため、太陽光発電が適していることが解りました。しかし、神戸の太陽光は期待ほどの伸びはなく、2030年再エネ目標値の達成は困難ではないかの懸念を持ち、脱炭素社会づくりの遅れも感じて各種の提言をまとめました。その中で、ひとりひとりのライフスタイルでの行動変容の重要性を訴えました。

テーマ選定理由は、温暖化に伴う問題が身近なものとなり、例えば、世界で異常気象、食料問題や水不足などが発生していることに問題意識を持ったからです。こうした中で、神戸はどんな状況なのか、私たち市民に何ができるかを問いかけながら行動しました。



フィールドワークでの実体験はコロナ禍により十分にはできませんでしたが、脱炭素先進都市の洲本市の調査から、どういった実行体制とやり方が大切なのかについて理解を深め、良い所を神戸でも実施したいと考えました。

グループ学習全体を通じた評価としてはメンバーが、一つの課題に向って10カ月間悩みながら意欲的に行動できたことは貴重な経験であり、仲間の絆が大変深まりました。

【次世代エネルギーの研究】

次世代エネルギー研究グループ 榎原 秀樹

(1) 研究内容

化石燃料が枯渇した後の、新エネルギー源としての水素の可能性について学習した。

(2) テーマの選定理由

化石燃料の枯渇に伴うカーボンニュートラルの可能性があり、次世代エネルギー源としての水素の可能性について学習することに興味を抱き、テーマとして選定した。

(3) 研究経緯

神戸市が推進している「水素スマートシティ神戸構想」を知った。すでに神戸空港島に液化水素の荷揚基地が建設され、海外から液体にした水素を船で運ぶ実証（水素サプライチェーン構築実証事業）が開始されている。さらにポートアイランド内に水素からつくった電気と熱を、街中に供給する実証（水素エネルギー利用システムの開発実証事業）が開始され、水素発電プラントが建設されている。

再生可能エネルギー（新エネ）だけでは化石燃料によるエネルギーに取って代わることは、とうてい無理であることから、不足分を補完するための水素エネルギーについて学習した。



神戸環境未来館におけるフィールドワーク

【迫り来る自然災害、備えは大丈夫ですか？】

ハッピーセブン 植野 茂樹

われわれのグループは、神戸における自然災害に対応する減災方策を学習テーマとしました。

神戸市は大雨が降ると、急流を流れ下る水が大量の土や石を運び、土砂災害が起きやすくなっています。近年の地球温暖化の影響により、豪雨の規模・頻度ともに激しさを増しています。さらに、南海トラフ地震が今後 30 年以内に 70%～80%の確率で発生すると予想され、津波に対応する必要もあります。

過去の経験と反省を学習して、自然災害に対する行政の防災対応と私たちの防災意識を調べ、私たちの心構えや取り組みを絞り込んで学習しました。

グループ活動期間中、新型コロナの第 4・5 波の影響により、フィールドワークに苦労しましたが、神戸市危機管理センター他見学 4 カ所、徳島県訪問調査他 4 カ所、三木防災センター体験学習、日赤防災セミナー参加の活動ができました。

最後に防災アンケートでご協力をいただきました健福、生環、国際クラスの皆さまに感謝申し上げます。



人と防災未来センター見学

【川と海の今 どうしてイカナゴはこんなにも減ったのか】

二十の瞳 中森 敏博

私たちの住む神戸の街は六甲の山並みを背に、光り輝く瀬戸内海・大阪湾を望む自然豊かな街です。しかし近年この海の中では、さまざまな問題が生まれています。イカナゴの不漁は神戸の街から、くぎ煮の香りを消し去ろうとしています。名産品の須磨ノリには色落ちしたものが現れ、海にすむ魚の胃には小さくなったプラスチックごみが蓄積していると聞きます。ところが、昔赤潮で覆われた海は見なくなりました。海は透明度を増しているのです。

昔を知る私たちは、海の変化について詳しく知りたいと集まりました。

先人たちの努力で海がきれいになった。でもどうして魚が捕れなくなったのか。それにはチツソが大きく影響していました。富栄養化によって青緑に汚れた海は、透明な貧栄養化の海に変わっているのです。浄化施設が完備され、河川改修による流入水の変化もありました。



河川調査海岸調査を繰り返し、専門家の意見を受けながら、この問題をどうするべきかを話し合い、意見を衝突させながらまとめました。



【生活環境のなかの森林浴】

みんなで森林浴 頼安 孝正

「生活環境のなかの森林浴」とは、居住地近くの森林(マイフォレスト)の下をゆっくり散歩することです。ステイホームの期間に近くの森を歩いて心地よさを感じたことがテーマ選定の動機です。

私たちは週に 1 回 1 時間程度の森林浴を続けた時の効果を検証することにしました。森林浴をする場所に、鶴越駅～烏原水源地周回コースを選び 2 カ月間歩きました。効果の判定は数値で表せる血圧にしました。8 回の森林浴の前後に血圧を測りその結果、徐々に血圧が適正値になり、休

止後も効果が1カ月間持続することを確認できました。

これまでの森林浴の医学実験では「日帰り」、「2泊3日」など長時間で1回の森林浴の効果が報告されています。

我々の成果は、短時間でも継続すれば効果が持続できるということが明らかにできたことです。神戸には身近に森林浴ができる場所がたくさんあります。メンバーのマイフォレストとともに、市内のマイフォレストに適すると思われる9コースを選択し歩き、各々を評価・紹介しています。そして「みんなで森林浴に行こう」と提案します。



【SDG 目標 12"エシカル消費=つくる責任,つかう責任"私たちができることは何か?"つかう責任"を考える】

KSC エシカル広報部 山本 正秋

SDGsをご存じですか？

17の目標がお互いに支え合っています。自然環境が社会環境を支え、さらにそれがSDG 目標 12の位置する経済圏を支えます。

身近なところに目を向けましょう。

例えばあわせの村のマルシェ。季節の野菜、お米、花、卵、蜂蜜等、これは産直、地産地消です。これがエシカルです。賢い消費者になる。消費者自身が、良識的な買い物をすることが世界のさまざまな問題解決に役立つことを考えました。

①環境②社会③地域④人 をキーワードに学園祭に初参加しました。来場者約150名。交流、アンケート、認証マーク、フェアトレードの商品、有機野菜、エコバッグ制作、寄付活動も行いました。22,150円のご寄付は、「認定NPO 女性と子ども支援センターウイメンズネット・こうべWACCA」に贈呈しました。

光と影の部分もあります「グリーンウォッシュ」はいいことばかりではありません。この社会活動は結果がすぐに見えません。このような単年度で結果の出ないもの、シリーズで取り組むべきテーマは、今後もつないでいただきたいと思います。



「神戸の水道水、なぜそのまま飲まないの？」～神戸の水道水はどこから？～

グループ・アクア 羽田 文雄

水道の蛇口をひねると、あたりまえのように水がでる。その水はどこからきたのだろうか？どんな工程を経て水道水になったのだろうか？水道水をそのまま飲んでいる人は、どのくらいいるのだろうか？水道水を飲まない人が増加したのはなぜだろう？水道水を飲まない選択は正しいのだろうか？それらのことに疑問を持った6人が、グループ・アクアを結成した。



水に関する市民の疑問を知る。そのためのアンケートを取る。グループで水の飲み比べを行う。その疑問を解決するためフィールドワークを行う。神戸の水道水は今どうなっているのか、神戸市の水はどこから来ているのか、高度浄水処理とは、水道水のおいしさとは、布引ダムと淀川の水の味が違うのはなぜか等を考察した。

そのグループ学習で行った調査研究を踏まえ、提言した。グループのメンバーとしては、この1年、水に関する多くのことを学び、改めて水の大切さを知ることができ、神戸市民の一人として、もう一度「神戸の水道水、なぜそのまま飲まないの？」「神戸の水はどこから？」と考えることが大切であると思った。



◇園芸専攻◇

園芸専攻グループ学習発表会はカレッジホールで2月4日に開催されました。

6つのテーマの研究栽培の発表がありましたが、今までの培われたチームワークのもと、半年以上の間の土作りや栽培、観察、測定、結果のデータを分析し、まとめられた研究成果は先輩だけでなく私たち後輩の今後の活動にもつながる発表だったと感じました。また日々の活動を楽しみ生き活きと発表されている姿にも感銘を受け継いでいきたいと思います。

ご指導いただく金地通生先生からの講評をいただき閉会しました。

(園芸 28期 本橋 平和)

【ジャガイモの省力栽培方法の提案】

1班 アンデスレッドグループ 米井 陽

研究テーマを決めるにあたって、これまでの先輩方がどのような研究をしたのか調べましたが、ジャガイモをテーマとした事例は多く、かなり研究し尽くされた感がありました。

その中で興味を引かれたのが24期の「超浅植え栽培」に関する研究栽培でした。超浅植え栽培は、近年省力栽培としてクローズアップされており、また、先輩の報告書には研究栽培でやり残した「課題」の記載もあり、「これだ！」ということで研究テーマとしました。また、少し欲張って、これまでの研究栽培では取り上げられてない「春植え栽培と秋植え栽培の比較」「リビングマルチの有効性」も研究テーマに加えました。種イモが1カ所の販売店では確保できず、2カ所の販売店で種イモを使用したことで、生育にかなりの差が生じるハプニングなど、計画通りにいかなかったことも多々ありましたが、なんとか、3年間の集大成としての報告書を完成させることができました。

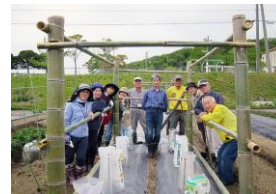
春植えと秋植えの2度で多量のジャガイモが収穫でき、家計の助けにもなりましたが、最大の収穫は、計画段階から収穫そして報告書作成までを、班員10人全員でやり遂げたことです。



き、色ムラや傷もない形のよいものができましたが、スイカの苗は8本中5本の苗が途中で枯れてしまいました。

それでも空中栽培は、整枝、誘引、受粉等の作業が容易で、17個のスイカが収穫できました。

スイカ・カボチャの栽培において、空中栽培は露地栽培よりも優れた点が多く、特に家庭菜園のように耕地面積が限られた場所では有効で、棚の下で他の作物の栽培も可能です。また、マンション等のベランダでの栽培も日照が得られれば、プランターと支柱を活用しても栽培は可能ですので、一度トライしてみたいと思います。



しっかりした空中栽培棚



たわわに実りました

【ジャガイモの仕立て本数の違い 並びにタネイモの大きさや形状違いによる、収穫量の比較】

2班 ジャガイモグループ 岩本 博幸

一般的にジャガイモは、芽欠きをして茎数を調整しながら栽培します。そこで仕立て本数（茎数）の違いによる収穫量などを比較・検証し、今後の家庭菜園などで役立つ資料としてまとめたいと、2月末に5名のグループ員で研究栽培をスタートさせました。

品種はキタアカリとメークインを選定し、1本仕立てから4本仕立てまでの4ケースで実施しました。栽培は土作りから収穫までを同一手法・同一管理で行いました。天候にも恵まれ順調に推移し6月中旬に収穫並びに計測を行いました。収穫量は1株当たり平均1.4kgとまずまずの出来ばえでした。検証の結果、両品種共にほぼ同様な傾向を示しており、世間で推奨されている通り2・3本仕立てが収穫量も多く、手頃なM・Lサイズの比率も高いことが確認出来ました。また、仕立て本数が増えるに従い、小さなサイズが多くなる傾向も併せて確認できました。狙い通りの結果が得られて満足しています。一方、同時に行ったタネイモの大きさや

【スイカ・カボチャの棚仕立て空中栽培による効果的栽培方法の検討】

1班 ほっこり姫グループ 逸見 義孝

何年か前に、天空カボチャというカボチャの空中栽培が、話題になったことがありましたが、カボチャの空中栽培が可能なのであれば、スイカも可能なのではないかと思ったのが、この研究をやろうと考えたそもそもの始まりでした。ただスイカは露地栽培でも栽培はカボチャほど簡単というわけでもなく、初めて空中栽培をするにはハードルが高いかなとの思いもあり、スイカに加えてカボチャの栽培を平行して行うことでスイカ栽培失敗時のリスクヘッジとしました。

実際に空中栽培をやってみると、カボチャは比較的うまくで

形状違いによる収穫量の比較では、トカチコガネを採用して実施しました。しかし栽培がやや難しい品種であったのと、別要因で枯れや生育不良が多く発生し、思った成果が得られない残念な結果となってしまいました。



収穫物を前に



班員で収穫中

【甘いトマトを作るのに適した栽培環境を調べる】

2班 フルティカグループ 上島 義明

甘いトマトを作るのには、水をやり過ぎないのがポイントとされています。露地栽培では天候にも左右され、やり過ぎず枯らさずの「ちょうど良い水やり」を行うのは、非常に難度が高いのです。そこで、家庭菜園でも可能な条件下で、甘いトマトを作るのに適した栽培環境を調べることにしました。

4月末にトマト苗を定植し、栽培環境も4区画（基本栽培・マルチ栽培・防水栽培・防水栽培＋袋栽培）の条件で栽培を開始しました。定植直後、強風と雨が続き全ての苗が黒斑病になり、全滅かと思われましたが、薬剤散布などでよみがえりました。また、去年は梅雨入りが平年より21日も早く、土壌水分量の調整が難しい中、防水栽培＋袋栽培が最も甘いトマトを栽培するのに適していることが調査で分かりました。しかし、鳥害（ヒヨドリ）や、台風による被害で最後まで収穫することができませんでした。自然の厳しさを思い知らされました。この体験を活かし、家庭菜園において自然災害を考慮した美味しいトマト作りに挑戦してみたいと思います。



研究畝前にて



袋栽培のトマト

【サツマイモの栽培方法の違いによる差異】

3班 サツマイモグループ 加門 敏秀

コロナ禍で密にならず育てやすい作物ということで、サツマイモを栽培品目にした。芋は種芋から育てた苗と種苗店で購入した苗を植え付け、収穫量と糖度を検証した。

3月2日よりスーパーで買った鳴門金時芋を3班8人が、5月7日植え付けを行うべく各家庭で水耕栽培、温床栽培にて苗作りに挑戦。芋の葉の成長を楽しみながら苗を育てていたが、苗は7葉7節あるものとしたことから予定日

には間に合わず、緊急事態宣言中ということを利用して2週間延長し、やっと14本の苗を確保した。植え付け後は、除草、蔓返しをたまにするぐらいで順調に成長し、10月収穫を迎えた。収穫後、過去に洗って腐らせた経験から、天日乾燥後土を払い新聞紙で包み、2週間農園倉庫の棚に保存した。そうすることにより糖度は3割から4割上昇し、おいしい芋になった。

今回の研究で、苗の選び方で萎えて乾燥した苗が良い、種苗店の購入苗は手ごろなサイズの芋が多くとれるとか、糖度が芋の部位によって違うことなどさまざま知らないことも多く、農業の難しさ、奥深さ、また作物を育てることの楽しさを知った。



26期3班のメンバー



家庭での水耕栽培

【肥料・栽培方法の違いによる落花生の収穫への影響】

3班 落花生グループ 村井 一水

園芸専攻 26期3班です。私たちは栽培作物を『落花生』とし、研究テーマは『肥料・栽培方法の違いによる落花生の収穫への影響』としました。落花生は紀元前2500年のペルーの遺跡から殻等が見つかっており、4500年以上も人類との関わりがある作物です。また気候や外敵から身を守るために、地中結実という珍しい特徴をもった作物でもあります。身近な落花生ですが、意外と栽培した経験が少なく実際に栽培してみたかった。そして肥料の違い、また土寄せという栽培に手間をかけることが収穫にどの程度影響するのか、を実験検証してみたかったというのがテーマの選定理由になります。

栽培は5月の種豆植えから10月の収穫まで137日に及びました。地中に子実がなるということで、収穫ができるのか最後まで不安でしたが、そのぶん無事に収穫できた時の喜びはひとしおでした。我々の栽培経験では『有機系肥料使用・土寄せ有』が収穫量で優位、という傾向がみられました。落花生は比較的簡単に栽培できる作物です。皆さんもチャレンジされてはいかがでしょうか。



防鳥ネット作業風景



収穫した落花生

◇音楽文化専攻◇

3月1日カレッジホールで26期学習発表会(卒業演奏会)がありました。「和太鼓」「パーカッション」「合唱」の3部門で「和太鼓」「パーカッション」はそれぞれのグループに分かれて、「合唱」は全員での発表でした。

和太鼓は力強く、迫力があり日本の楽器の良さを知らされ、パーカッションはフランスの街並みが目に浮かぶ響きでした。3年間の学生生活のうち、2年以上もマスクでの合唱はご苦労されたと思いますが、美しいハーモニーと心のかもった歌声には感動しました。先輩方の努力に敬服した1日となりました。

(音文28期 仲川 一美)

【和太鼓グループ】

チーム名 華太鼓 26

演奏曲 「華乃舞」

作曲 松村 公彦

指導 松村組 松村 公彦 先生、

松村 初恵 先生、鳥居 侑平 先生

リーダー 戸田 和子、中尾 和美

松村公彦先生が作曲された「華乃舞」は各種の太鼓の音質や演奏の違いを知り、楽器を通して自己表現し3年間の集大成として仲間と共に華やかに舞うことを課題としたものです。

メンバーは男性2名女性14名でほぼ全員が和太鼓を叩くのは初めてでした。初めの頃は少しの練習で身体のあちこちが痛くなるし、音もテンポもバラバラでしたが、お互いに励まし教え合いながらマスク着用の息苦しさにも耐え、合計53日(延べ約130時間)の自主練習を重ねました。仲間同士の絆が深まった頃、身体の痛みは感じなくなりました。心待ちにしていた月に1度の松村先生の授業は分かりやすく毎回少しずつ上達しました。初めて篠笛に挑戦した2人の努力も実り、篠笛メロディ入りの華やかで伝統ある和太鼓演奏になりました。

卒業演奏では16名の仲間が心を一つにして、練習の成果を存分に発揮し力強い演奏ができたと思います。「華太鼓26」ならではの「華乃舞」をホールいっぱいに響かせることができ感激しました。

熱心にご指導くださった先生方、応援してくださった高山さんはじめ事務局の方々に感謝し、心よりお礼申し上げます。



【パーカッショングループ】

チーム名 Treize Etoiles ~

フランス語で「13の星」

曲名 「男と女」「オー・シャンゼリゼ」

編曲 山中 佑起子

指導 山中 佑起子 先生、柏木 菜穂子 先生

リーダー 池田 充志、藺田 真由美

「Treize Etoiles(13の星)」は男性8名女性5名の楽しい仲よしメンバーです。このメンバーでオリエンテーションをやった時に、講師の山中先生は、みんなの希望を聞きながら、フランスのイメージが湧いてきて、映画音楽「男と女」と「オー・シャンゼリゼ」をパーカッションアンサンブルにアレンジしてくださいました。フランスのシャンゼリゼ通りを歩く夢の中で、どこからともなく聞こえてくるパッフェルベルのカノンを織り込んで輝くTreize Etoiles、13の星。

コロナ禍でフランスに行けただけでなく、卒業演奏に向けての練習さえもいつ中断されるかわからないという不安な状況で、自主練習を積み重ねていきました。1人あたりの担当打楽器はこれまでの卒業演奏会よりも多く、1つの曲で、1人が3つも5つも楽器を受け持ったので、シーン転換ではタイミングを逃さない機敏な持ち替えを要求されました。チームの力の良さと互いを思いやる優しさで、調和を大切にしながら演奏する中で、私たちの絆は卒業に向けてより強くなっていきました。そして、前半の変拍子に苦労しながらも、後半の賑やかなパーカッションアンサンブルからのラストパートはパワフルな演奏で完結しました。

先生方の熱心なご指導や、事務局の方々に支えていただいたことに深く感謝しております。本当にありがとうございました。



【合唱グループ】

チーム名 響 26 (ひびき 26.)
曲 目 「365 日の紙飛行機」「ほらね、」
指導・指揮 齊田 好夫 先生
ピアノ 中村 真実 先生
班 長 林 康子、清水 博、廣瀬 和孝

3 年間のカレッジ生活の中で、新型コロナウイルスとのお付き合いは、何と 2 年以上にわたってしまいました。マスクを着けたまま歌うことにもすっかり慣れて、合唱ではマスクの中からも歌詞を伝えられるよう、子音をしっかり言葉をはっきり歌うことが求められました。

私たちは三部合唱の曲を 2 曲演奏しました。1 曲目の「365 日の紙飛行機」は、2015 年に放送された NHK 朝の連続テレビ小説『あさが来た』の主題歌としておなじみの曲です。AKB48 などによって歌われたこの曲は、1970 年代のフォークソングにも通じる素朴な曲調になっており、軽快なり

ズムや楽しさが皆さんに伝わるよう、ハーモニーを響かせました。

2 曲目の「ほらね、」は、東日本大震災の後、“歌でつなげよう、歌で被災地を応援しよう”と企画されたカワイ出版の「歌おう NIPPON プロジェクト」のために書き下ろされた作品で、歌うことで人と人がつながっていけたらという作者の願いが込められています。「♪ほらね 僕らは一人じゃない、きっとね 誰も一人じゃない」というフレーズは、コロナ禍で練習に励んだ私たちに勇気と希望を与えてくれました。



◇美術・工芸専攻◇

美術・工芸専攻 26 期のグループ学習発表会が 3 月 2 日に行われました。「Legacy 8」「陶響（とうきょう）」「男前 練りこみセブン」「ZOGAN オールスターズ」のテーマ別 4 グループが真剣に取り組んできた成果の発表でした。

それぞれのチームが共通した陶芸の難しさを経験されたことの発表であったと思います。練りこみや乾燥時間の重要性、異なる土の馴染み具合、収縮による寸法変化の予測、色の変化、変形、割れ等、まさに陶芸技術の醍醐味のようなものを感じました。各チームともコミュニケーションの良さが感じられる研究発表でした。

3 年間の集大成である卒業制作展は 3 月 3 日～18 日まで、ふれあいホールで展示されます。みなさん是非ご覧ください。

(美工 28 期 山本昌昭)

【人は高を括るもの】

Legacy 8 益田 義弘

カレッジ正面玄関前に広がる庭に、卒業生が創った陶芸作品が在る事をご存じだろうか？カレッジ創業時から 1 桁期の卒業生たちが卒業制作として記念に残っていた作品である。しかし限られたスペースしかないため、どんなに精魂込めた作品であっても、今では設置したりカレッジが引き取ったりすることは無いのである。

そこで校外のしあわせの村日本庭園に目を付け、ここの樹木に樹名札を掲げようとなった。陶板だから腐ることもなく永遠に残るからだ。要は何の変哲もない平たい陶板である。「簡単楽勝！夏には終わるわ、しめしめ」と参加したメンバーが 8 名である。人は上っ面だけを見て高を括るものである。他の 3 グループは既に終わり余裕しゃくしゃくなのに、我々だけが未だに格闘中なのである。簡単そうに見えるものこそ奥

深く難しいものである。思わぬ人生訓を得たグループ学習である。詳細は割愛させていただくが、何がそんなに難しいのか？興味ある方は是非お声がけいただきたい。



【我ら少数派バンザイ!!】

陶響（とうきょう） 隅田 剛弘

「音の出る陶器を作ろう」と集まったのはユニークで個性的な面々。事情により1人抜けて4人だけのメンバーになり、正直なところ「この人数で大丈夫かな？」と思いましたが特に綿密なミーティング等を行わず、各自マイペースで好きなもの、作りたいものを制作しました。

音程および音色調整の難しさや破損事故等の失敗もありましたが、新たな発見や違う制作方法の研究を行なった結果、ウドドラム・陶琴・ウインドウチャイム・風鈴・土鈴・鳩笛・カリンバ等の面白く、きれいな音色のするさまざまな陶器製の作品ができました。決して主流派を目指さず、あえて少数派で「わが道を行く」4人の我がメンバーが大好きです。

また作陶をご指導いただいた赤松、市野の両先生、音響的なアドバイスをいただいた音楽文化コースの山中先生、バラバラになりがちな我々をうまくまとめてくれた事務局の加藤さんに深く感謝いたします。



【和模様などの絵柄をカラー粘土の練り込みで作る研究】

男前練り込みセブン 長瀬 満男

幾何学的な模様の美しさやカラフルさなどに惹かれ練り込み作品をやってみたくらいというメンバーが、なぜか男前ばかり7人集まったのでグループ名を「男前練り込みセブン」と命名。日常使用できる作品を目指し、各自好きなモチーフを選んで制作を開始した。小型のテストピースはそれらしくできたが、作品の模様が複雑になりかつ大型になるにつれ、初期乾燥中にも粘土の継ぎ目からひび割れが生じた



り、素焼きまで無事に進んだものが本焼きでぱっくり割れたり、練り込み作品の難しさを思い知らされたが、その対策を繰り返しメンバー間で相談し合い、ノウハウを学んでいった。

同じ作品を3度4度とやり直し、期限ぎりぎりまでかかった作品もあったが、粘り強く取り組んだ分、最後に来上がった作品には苦労して作り上げた思いのこもったものとなった。未永く大切に使いしていきたい。

【新たな象嵌への挑戦】

ZOGAN オールスターズ 石田 章

象嵌は古くからある陶芸の技法で、三島土鍋などの家庭にもあり馴染み深いものである。



我々は、この古くからある象嵌に圧着象嵌やくエルダセカといったスペインタイルの色鮮や

かな手法を加え、我々なりの息吹を吹き込んだ新たな象嵌技法でどんなものが作れるか挑戦してみた。

最初のミーティングで「花札」「干支」「四季催事」「花のスペインタイル」この4つのテーマに絞り込み、全員共同で取り組むこととした。大阪のスペインタイル教室の体験教室や立杭焼き窯元への訪問といったフィールドワークからスタートし、その後テストピースで試行錯誤を繰り返して本制作へ入っていった。タイルはいずれも真四角のフラットであるが、作ってみると反ってしまったり寸法が揃わなかったり結構難しく、粘土の乾燥段階で何度も表裏ひっくり返したりとか、それなりのコツが必要なのことがわかった。また、赤系統の釉薬が思うように鮮やかに発色してくれず、これにも悩まされた。頑固で人の言うことを聞かないメンバー11人であったが、フィールドワークや共同作業通じて意気投合し、心配していたゴールも和気あいあいとすんなり到達できた。後はコロナでのびのびになっている打ち上げを盛大にやりたい！！



健福 26 期 津村 新

この 3 年間（休校を除けば約 2.5 年）、健康と福祉についてさまざまな角度から学ぶことができましたが、あらためて自分自身が健康であり、福祉のお手伝いもできることの有難さを感じます。しかし、いずれフレイル期は訪れるのであり、それに備えておかねばなりません。まずはカレッジで勉強したことを整理し、これまで実践してきたウォーキングと筋トレの運動習慣を続けていきたいと思っています。在学中の収穫は多くありますが、その一つはパソコンの技能向上です。グループ学習やクラブ活動を通じて、そう実感される方も多いのではないのでしょうか？私の場合は、2 年生で施設利用委員会（RBC）の代表になり、これまでと違った次元でエクセルとメールを使わねばならなくなりました。前代表（RBC システムの構築者）に何度も助けてもらいながら 1 年間勤め上げましたが、実感的には「慣れれば（それなりに）できる」です。クラス、クラブ、地域交流で、学生は役割を果たすことが求められます。ただ役割には、責任とそれに伴う精神的・時間的負担があるため、どう分担するかが課題でした。「みんなのために一歩踏み込む」をこころがける方が多くおられたことは、幸いだったように思います。入学式の集合写真には、気心の知れた仲間たちに交じって、いろいろな事情があって去っていった人たちの顔があります。この人たちの思いも背負いながら無事に卒業できる幸せをかみしめたいと思います。皆さまありがとうございました！



巡らせていましたが、今の状況下では海外視察もできないため、「つながり」を学習テーマにしました。制約を受けることが多くあり、計画の見直しを余儀なくされることも多々ありました。それでも工夫しながら各グループが研究・討議を重ね、それぞれ多様で個性あふれる発表ができたように思います。グループ学習への取り組みや発表の機会などを通して、まとまりが強まり、さらに、55 人のクラスメイトの顔と名前がほぼ一致できるようになりました。それぞれの人となりに接し、知識や経験の豊富さはもちろんのこと好奇心あふれる元気なお姿は尊敬する方々ばかり。このクラスで過ごした 3 年間はかけがえのない思い出です。

生環 26 期 松本 啓二



シルバーカレッジに入り数カ月経った頃、小学校 4 年生の孫に「学校行つての楽しみは何や？」と聞いたら即座に「給食と体育」と言いました。「そうかジジはシルバーカレッジの食堂での昼ごはんとかクラブ活動が楽しみや」と会話を思い出します。

出します。

生活環境コースに入学したものの、最初は何を勉強するのかなと思っていましたが、生活環境に関する様々な授業を受けることができました。今までの社会生活の中での知識も多少はありましたが、掘り下げた授業を受けることにより、あーそうだったのかの連続で目から鱗がたくさん落ちました。グループ学習も含めて 3 年間学んだことは今後の生活でもきっと活かされると思います。コロナ禍の中、緊急事態宣言とまん延防止等重点措置が断続的に繰り返され、集中しての登校ができませんでした。授業やグループ学習を通じて、そしてクラブ活動を通じて、新たな友達ができました。会社生活とは違い上下関係もなく損得もなく実に気安い友ができたことが何よりの収穫です。大学でもなく、高校でもなく、中学でもなく、小学校時代に戻った気がするのは私だけでしょうか。小学校時代には先生にいろいろお世話になりましたが、シルバーカレッジでは事務局の皆さまに大変お世話になりました。3 年間ワガママな老人の面倒を見てくださった事務局の皆さまに感謝、感謝です。

国際 26 期 橋 道子



1 月半ばに開催されたジョイ・ラック・デイが終了した日、「大きな行事がまた 1 つ終わってしまいましたね！」と 1 人のクラスメイトがつぶやきました。12 月にグループ学習発表会も終わり、卒業まであと 2 カ月を切った今日、

なんとなく寂しさが募ってきています。

旅行が好き、外国のことを少しでも知りたいなどという単純な思いで国際交流・協力コースに入学しました。クラスには 1 人として知り合いはいませんでした。入学式の時、たまたま隣に座ったというご縁で親しくなった友をはじめ、仕事とは全く無縁の、新たな仲間との交友関係がスタートしました。その関係が心地良く、授業開始前や、昼休みにはおしゃべりが弾みました。複数のクラブ活動にも入部し、このまま忙しくも楽しく充実した日々がずっと続くだろうと思っていましたが、新型コロナウイルス感染症対策で休校措置が取られ、授業再開後も学習活動など制約を受けることになりました。休学、退学で入学時の半数近くの友が去りました。

3 年生になると、学習の集大成であるグループ学習が始まりました。1 年生時にはテーマを外国との接点に求め、フィールドワークはどこの国でなどワクワクしながらさまざまな思いを

美工 26 期 井上 美恵子



再び学べることの喜びを胸に入学したのが昨日のように思い出されます。クラス仲間との出会いはとても新鮮でした。班に分かれて初めての共同作業が、学園祭の看板製作でした。

これを機にすっかり打ち解けたように感じました。もうすぐ 2 年生という時にコロナウイルスの感染拡大という思ってもみなかった厄難が、日本だけでなく世界中に襲いかかり、半年間の休校を余儀なくされました。寂しく残念でしたがこううとき

こそ、今一度苦手なところを学び直し、再開に向けて備えることができました。また、オンライン授業も開校以来、初めての試みとして共通科目に実施されました。何回も見たいところは繰り返し視聴できる良さも実感しました。

3年では卒業制作、グループ制作に追われる日々でしたが、絵を描けること、土を捏ねることができる日々感謝しつつ、思う存分味わい楽しませていただきました。30名の陶芸・絵画作品は入学時の作品とは比べものにならないくらい、素晴らしい数々が完成しました。全力投球で励んだこの学びは一生忘れられないものになるでしょう。貴重な経験と得がたい仲間、今はカレッジで出会った全ての皆さまに感謝の気持ちで一杯です。今、学んだことを経験したことを少しでも次の世代に伝えることで還元できたら幸せです。

最後になりましたが、個性溢れる私たちを温かくご指導くださった諸先生方、細やかな気配りで助けてくださった加藤さん、事務局の皆さま本当にありがとうございました。



音文 26 期 久保 希世子

『音楽文化のコースがある』と見学も下調べもせずシルバーカレッジに願書を出しました。希望者多数の音文に1度で入学できたのはラッキーだった事ことに“ヘー！”、入学してすぐに歓迎交流会のためにクラス

仲間と合唱を作ること事に“ヘー！”、クラスで学園祭委員を選びましたが、計画・実施に至るまで引継ぎがあるにしても学生で運営することに“ヘー！”、多数のクラブに入っている方がいることに“ヘー！”、58歳で入った私にとって人生の先輩方のパワフルな活動力に感心するばかりでした。専門家の先生方の授業は興味深く聴きましたが、難しいことが多く居眠りも…。学園祭委員ではステージ運営に携わり「気力・知力・体力」で挑みました。しんどかったけど面白い経験でした。“井の中の蛙”だった私には社会勉強にもなった1年生でした。『響 26』の合唱作りも順調！このまま楽しく…と思っていたのにコロナ禍の休校で2年生は半年分でした。休学や退学を余儀なく選択したクラス仲間もいます。そんな中でも繋がっていた『響 26』！この3年間の絆は、大目立ちの楽器の移動と苦勞して練習してきた卒業演奏でしっかり発揮できたと自負します。

斉田先生はじめ先生方、事務局の方々、そして何よりも『響 26』との出会いに感謝します。私の人生に“ヘー！”と“はじめの一步”をもっともっと作っていきます。

音文 3 年間、ありがとうございました。



園芸 26 期 松宮 良樹

園芸専攻を選択したのは、デスクワークが主体の仕事をしていたこともあり、座学中心ではなく実習等で体を動かさ、まったく知識の無かった花や野菜等の園芸を学んでみたいとの

思いからでした。入学すると花の知識をお持ちの方、家庭菜園をされている方、庭木の剪定技術を深めたい方、私と同じく全くの初心者の方など色々な方々で、どうなることかと思いましたが、班毎にカレッジの農園や花壇を割振り、自由に植付け・栽培させていただくことで共同作業もあり、徐々に仲間意識も深まり、ワイワイと過ごすことができ、基礎知識も習得でき、今ではすっかり園芸が私の趣味になりました。ただ残念であったのは、新型コロナの影響で1年の最後から2年の1学期が休校となり、またその後もイベントの中止や縮小、共通授業のオンライン配信となったことで、学年を越えた交流も少なく、学園生活が少し寂しくなったことです。

卒業後も引き続き、クラスメイトと神出自然教育園でのボランティア活動を楽しみながら交流を続け、入学をきっかけに始めた市民農園での野菜栽培を教わった基礎知識を基に試行錯誤しながら続けて行きます。

最後にご指導いただいた先生、事務局、サポーター、学友の皆さんに大変お世話になり、ありがとうございました。



食文 26 期 杉崎 幸子

3年目に念願の食文化に入学することができました。入学式では少しの緊張と楽しみのワクワク感でいっぱいでした。授業では先生がやさしく指導してくださり、調理実習も今まで料理をしたことがない男性にも積極的に調理をしてもらい、みんなで楽しく献立を仕上げました。学園祭では、初めての事なので不安もありましたが、協力して600食の豚汁を作り、1年最後には総まとめ料理を各班で工夫して素晴らしい料理を作ることができました。

2年生になりコロナの感染が広がりカレッジも臨時休校になり、その間に今までの自分を見直す時間が持てました。

これからの人生、自分には何ができるのだろうかと考え、ボランティアの英語点字があることを知り、カレッジ再開の10月から早速入部しました。まだまだ勉強中ですが、英語点字を通して他の国の人達にも役立つことができるなら、これからも挑戦してみようと思っています。クラスメイトも入学時40名でしたが、その後の減少で28名になりました。

3年になり、自分にできる範囲で頑張ろうとクラス代表を引き受ける事にしました。グループ学習が始まり、初めてパワーポイントを作ったり卒論の原稿を書いたり毎日多忙な日が続きましたが、カレッジ生活でしか体験できないことだと思い積極的に取り組みました。この1年、皆が一丸となって協力してくれたおかげで食文 26 期の絆ができました。

この素晴らしい仲間が揃って卒業できることを、とてもうれしく思っています。

2021 年度 ジョイ・ラック・デイ

【ステージ出演グループ】

「マジック同好会」「オールディーズ」「フォークダンス」「民謡同好会」「アンサンブル」「フルーツクラブ・フルーツパフェ」「フレンズ 響」「軽音楽クラブ」「KSC 男声合唱団」「人形劇 ゆめ」「アロハハワイアンズ」「ハーモニカ」「手話ソング」「英語クラブ」「三曲会」「オカリナチーム」「謡曲クラブ 銀謡会」「フォークソング」 18 団体が参加

ステージは全部で 18 団体が出演されました。ジョイ・ラック・デイに初参加されたグループ、今までとは違う初めての劇を披露されたグループ、観客席と一体になって手話をされたグループなどのパフォーマンスを見せていただき、楽しい時間を過ごすことができました。

コロナ禍でのさまざまな制約があり、マスクや除菌シートも手放せない状態での練習は大変だったと思います。その苦勞をみじんも感じさせないような皆さまのパフォーマンスは素晴らしかったです。各グループへの入部希望者が増えるのではないかと思います。

(音文 27 期 甲斐 和子)



英語クラブ



手話ソング



フレンズ 響

ホール入り口では、入場者は過密状態にならないように人数制限が行われ、出演者はマスク着用での熱演でした。オープニングは、9 時 30 分マジック同好会の「マジックのタネが見えないマジック」でした。出演団体の持ち時間は 20 分程度で、適時換気時間を取りながらプログラムは進められました。午前のトリは、美しいハーモニーの KSC 男声合唱団でした。35 分間休憩の後 午後のオープニングは、人形劇「ゆめ」昔話を題材にした劇で、大トリはフォークソングの青春時代の歌で締めくくられました。

スクリーン映像を駆使して臨場感を演出した演技、手拍子や一緒に手話をするなど出演者と観客が一体となる演技もあり、観客は大いに楽しみ心なりました。ボランティアセンターの皆さまありがとうございました。

(生環 28 期 佐野 幸男)



謡曲クラブ 銀謡会



フォークソング

【ふれあいホールおよび講義室での展示・体験】

「絵画グループ」「川柳クラブ」「木工グループ」「絵手紙同好会」「書道部」「国際交流友の会」「こども文化」「野鳥と自然観察会」「陶芸グループ」「ケナフの会」「楽遊グループ(銭太鼓)」「スポーツ吹矢」「茶道部」 13 団体が参加

(生環 27 期 村田 全康)



グループわ だより

第 5 回しあわせの村ユニバーサルカレッジ (12月18日)

特別支援学校を卒業して就労する障がい者が、講義や部活動などを通じて一般教養を身に付け、仲間作りもできる生涯学習の場なる「第 5 回ユニバーサルカレッジ」が、シルバーカレッジで開催されました。グループわ は、ボランティアグループによる高齢者と受講生との世代間交流授業や部活動のサポート、その他ユニバーサルカレッジを側面からサポートします。世代間交流ではグループわ 所属の「わらい届け隊」による大型オセロゲーム、巨大折り鶴、紙飛行機大会が行われ、みんな大喜びでした。



パソコン体験教室 (1月24日、27日)

グループわ では毎週金曜日に新長田ふたば学舎で「パソコンなんでもお好み塾」を開催しています。今回「パソコン体験教室」をシルバーカレッジで 2 回開催しました。教室は「教えてほしいこと、聞きたいことなんでも OK」で文字の入力からメールの使い方、ブログ、ウィルス対策などそれぞれのテーマで講師と共に 12 人が学習しました。



グループわ で一緒に活動しませんか。
OBが活動しています。
在学中でも入会可能・大歓迎です！
活動の詳細は、web サイトへ
<http://wa-net.jp/group-wa/>



清水 典子先生のジョイフルクッキング



《材料》 4人前

| | |
|-------|------|
| 米 | 2合 |
| 〔昆布 | 4cm |
| 〔酒 | 大さじ1 |
| 焼きアナゴ | 1/2尾 |
| えび | 小4尾 |
| 干しいたけ | 4枚 |
| 絹さや | 4枚 |
| 青じそ | 4枚 |

さぬき寿司

| | |
|-------------|----------|
| 卵 | 1個 |
| 〔塩 | 少々 |
| 〔砂糖 | 小さじ1/5 |
| 調味料(干しいたけ用) | |
| 〔しょうゆ | 大さじ1と1/3 |
| 〔砂糖 | 大さじ1と1/3 |
| 〔みりん | 大さじ2/3 |

《作り方》

- 1) 昆布と酒を入れて炊いたご飯に、合わせ酢 a) を混ぜ合わせて、すし飯を作る。
- 2) 焼きアナゴは削ぎ切りにする。
- 3) えびは背わたを取り、しっぽから竹串にさして茹でて、冷めてから皮をむき、腹開きにして合わせ酢 b) につける。
- 4) 水で戻した干しいたけは調味料(干しいたけ用)を入れて、甘辛く煮付けてからみじん切りにする。
- 5) 卵は塩、砂糖を入れてよく混ぜて薄焼きにする。
- 6) 絹さやは茹でてから、斜めに3本の切れ目を入れる。
- 7) 押し型にラップを敷き、すし飯を2cm位平らにし、しいたけを全体に散らし、すし飯を乗せて上をきれいに押す。
- 8) 7)の上に薄焼き卵を乗せ、えび、あなご、絹さやをきれいに飾る。
- 9) 青じそを敷き、盛り付ける。

《合わせ酢の作り方》

- a) 酢飯用の合わせ酢は酢50ml、砂糖大さじ3と1/3、塩小さじ2/3を混ぜ合わせる。
- b) えび用の合わせ酢(甘酢)は酢大さじ1、砂糖大さじ1/2、塩 少々、酒小さじ1を混ぜ合わせる。

(食文27期 中田 賢和)

《俳句クラブ》

【兼題】新年と雑詠

春風の幸福駅の出合ひかな

谷口 裕

蘇る石碑の文字や初明り

中井 芳樹

初東風の空を切り裂く鳶一羽

大高 松男

面の中熱気籠れり寒稽古

大高 松男

白味噌を溶かす雑煮の餅二つ

千足 恵美子

山裾の明かり真つ直ぐ寒の入り

戸田 文章

待春へ掛け置く絵馬の重さかな

戸田 文章

探梅や吟行の塊おちここに

佐野 貴代美

ビル風に身じろぎもせず冬木立

貞刈 茂

親離れ子離れするもお年玉

山田 浩子



《川柳くらぶ》

題「折る」

あの道を右に折れたが運の尽き

吉田謙

選に落ち心折れるも飯うまし

吉田謙

長話腰を折られて喜ばれ

大高松男

挫折する一夜で戻る調子者

大高松男

一枝を折って仏間の梅の香

千足千

「自由句」

職業に農業と書く庭菜園

吉田謙

ツリー立て鳥居の横で除夜の鐘

吉田謙

神様に賄賂を贈り福を待つ

大高松男

十万円現金撒いて年暮れる

大高松男

この命あげる人なし枯れ薔薇

千足千



《応募作品》

短歌と川柳

ターナーの逆巻く波や冬の空

シャコメッティ造りた姿枯木かな

冬ざれや描くユトリ口白き街

寺尾隆志(美工28期)

もともとが夫婦会話に距離があり

嬉し悲しや三密の掟

見つけた顔ほころびて梅一輪

人の世に春を告げるや物価高

野田悦治(生環26期)

俳句・川柳募集中!

投稿はこちらから



事務局だより

◆26期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます

26期生 260人の皆さまが、3月23日（水）に卒業されます。学校生活での勉学やボランティア活動、クラブ活動などで、充実した日々を過ごされたと思います。この数年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況下、感染対策を励行しながらの授業やオンライン授業など貴重な経験をされました。

今後は、健康に留意され、当カレッジのモットーである「再び学んで他のために」を実践されますことを祈念しております。

◆卒業記念品ありがとうございます

3年生の皆様による卒業記念品として、トランシーバーを寄贈していただきました。各種イベントやグループ学習、ボラ

ンティア活動、クラブ活動などで活用されると思います。ありがとうございました。

◆感染症感染予防対策へのご協力をお願い

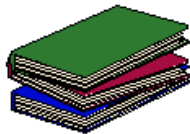
皆さまには、カレッジ内外における感染症感染予防対策にご協力をいただいています。春は近いといえども、気温が低く、乾燥した時期は、新型コロナウイルス感染症（オミクロン株）やインフルエンザなどの感染症が流行しやすい時期です。体調管理、3密の回避（特に食事のとき）、手洗いの励行、マスクの着用（特に飲食の最中の会話もマスクをする）、黙食など感染症感染予防対策の励行により、安全で安心な学園生活を送ることができるようご協力をお願いいたします。

図書室だより

図書室では、皆さまがより快適な環境の中で、読書をしたり、調べものをしたりできるように、毎週、全書棚の整理整頓を行うことにしています。多くの方のご利用をお待ちしています。

また、読んでみたい本が図書室にない場合、購入申請ができますので、申込みをお願いします。

3月14日（月）から4月11日（月）までは閉館となります。閉館期間中は、返却する貸出書籍を事務局においてお預かりします。



「農家が教える石灰で防ぐ病気と害虫」

著者 農山漁村文化協会

出版社 農山漁村文化協会

(613)・・・農業基礎学

「道法スタイル野菜の垂直仕立て栽培

植物ホルモン活性化で驚きの収量を実現」

著者 道法正徳 監修 出版社 学研プラス

(626)・・・蔬菜園芸

「姫君の賦 千姫流流」

著者 玉岡かおる 出版社 PHP 研究所

(913)・・・小説、物語

<新着図書>

「なぜ日本は中国のカモなのか」

著者 石平 出版社 日本工業新聞社

(302)・・・政治・経済・社会・文化事情

「シニア世代の学びを社会に生かす」

著者 服部祥子 出版社 ミネルヴァ書房

(379)・・・社会教育

編集後記

2021年度の最終号となります。コロナ禍で7月号は休刊となりましたが、皆さまのご理解とご協力を持ちまして無事3月号まで発行できましたことを感謝申し上げます。

現在、オミクロン株の猛威が日常を騒がしていますが、健康に留意し、ウイズコロナでカレッジ生活を充実したものにし

ていきましょう。

情報誌「爽風」は、これからも神戸市シルバーカレッジの皆さまにとって必要な情報を提供していきたいと思っております。

1年間ありがとうございました。

情報誌編集委員会

2021 年度ジョイ・ラック・デイ



看板



ケナフの会



ボランティア木工グループ



ボランティア・グループ「こども文化」



陶芸ボランティアグループ



絵手紙同好会



KSC 書道部



KSC 茶道部



楽遊グループ (銭太鼓)



KSC スポーツ吹き矢グループ



KSC フォークソング・クラブ



KSC 民謡同好会



KSC オールディーズクラブ



KSC 謡曲クラブ銀謡会



KSC 人形劇「ゆめ」



英語クラブ